

一條コラム 6

上場企業勤務者が

「切なさ」を解消するための方向性についての考察

先程、上場企業にお勤めしている人であれば、必ず抱えることになる「3つの切なさ」についてのお話をさせていただきました。

このコラムでは、この「3つの切なさ」について、もう少し深く掘り下げていこうと思います。

なぜかという点、このような問題が起こることがわかっている以上、その問題を抱えた人がその問題をどのように解決しようとするのかという傾向を知っておくことには意味があると思うからです。

▼
そのお話をする前提として、もう一度確認しておきますと、上場企業にお勤めしている人であれば誰もが抱えることになる「切なさ」には3つのものがありました。

ひとつが、「能力はあるはずなのに何かかわらず、人事異動でまるで勝手がわからない部門に異動になり、なにもできない人ようになってしまう」という「切なさ」。

ひとつが、「相対的に高い給与を受け取っているにもかかわらず、お金に余裕があるとは感じられない

い」という「切なさ」。

ひとつが、「社外の人たちからは『すごい』と言われるのにもかかわらず、社内では埋もれてしまっている」という「切なさ」でした。

これらの「3つの切なさ」は、それぞれの人の性格や特性によるものではなく、「上場企業」と呼ばれる企業にお勤めしている人であれば誰もが必ず抱えることになってしまおうという、いわば「構造的な内容」です。

ですので、上場企業にお勤めしている人であれば、自覚の有無に関わらず、それぞれの人がそれぞれにこの「3つの切なさ」を抱えることになるわけですが、しかし、こうなってくると、それぞれの「切なさ」について、その切なさを解消したい、というニーズを持つ人たちも出てきます。

では、これらの「切なさ」を解消したいと思ったときに、どの「切なさ」から解消したいと思う人が多いのか。

僕が見ている限りにおいてというと、やはり「相対的に高い給与を受け取っているにもかかわらず、お金に余裕があるとは感じられない」という「切なさ」に目が向く人は多い気がするのです。

世の中のにも、「お金に余裕がないという状況」は、あまり良い状況ではないですよ、というような認識があるようにも感じますし、実際の問題として、いろいろと支払うべき支払いもある。

そのような理由からか、「相対的に高い給与を受け取っているにもかかわらず、お金に余裕があると

は感じられない」という状況を改善したいと思うようになる人は少なくない気がするのです。

▼
ところで、今、僕は、上場企業にお勤めしている人たちが必ず抱えることになる切なさのひとつとして、「相対的に高い給与を受け取っているにもかかわらず、お金に余裕があるとは感じられない」という「切なさ」を取りあげてお話をしているわけですが、実際にこの「切なさ」を抱えている人たちのほとんどは、自分がそのような「切なさ」を抱えていることを認識していないことがほとんどです。

では、その人たちがどのような認識を持っているのかといえは、その人たちは「お金に余裕がない」という認識を持っていたりします。

ですので、よくよく理解をすれば、その人たちが持っているニーズは、「相対的に高い給与を受け取っているにもかかわらず、お金に余裕があるとは感じられない」という状況を改善したい」というニーズであることがわかりますが、このニーズは一般的には「お金に余裕がない」という状況を改善したい」というニーズとして認識されることが多い傾向があります。

このような状況があるわけですが、いずれにしても上場企業にお勤めしていらっしゃる人たちのなかで、「お金に余裕がある状態になりたい」と考えるようになる人たちは少なくない気がするのです。

▼
そしてそのように「お金に余裕がある状態になりたい」と考え始めた人たちの頭の中には、お金に余裕がある状態になるための情報についてのアンテナが立ち始めます。

そうすると、たとえばですが、「収入を増やすための方法」や、「お金を稼ぐための方法」といった情報に目が留まるようになってきます。

その結果として、そういう情報が書いてあるWebサイトや雑誌や書籍を見るようになる人たちが出てくるわけですが、たとえばそのような「お金を稼ぐための方法」が記事になっている雑誌を開いてみると、「中卒の僕でもこんな車が買えました!」というような小見出しと共に、超・高級とされる外車を背景にニッコリと笑っているペンキ屋さんの社長の写真が載っていたりするのです。

これは実際に、僕にその写真が載った雑誌を見せてくださった上場企業の部長さんがいらっしやったわけですが、ここで言いたいのはペンキ屋さんという事業がいいとか悪いとかという話ではありません。学歴の話がしたいわけでもありません。

そうではなくて、そういう雑誌やWebサイトを僕に見せてくれる部長さんたちの話を聞いていると、その部長さんたちの頭の中には、「この社長さんよりも、自分の方が、絶対に能力が高い」という想いがあることが感じられるという話がありました。

これはそれがいいとか悪いとかという話ではない一方で、でも、考えてみればそうなることは当然かもしれないとも思うのです。

なぜならば先程もお伝えしたとおり、そもそも上場企業にお勤めしている時点で自分の能力に対する自負がある人たちは少なくないですし、ましてやそのなかで「部長」という役職に就いているのであれば、その自負も強くなっておかしくないからです。

では、自分よりも能力が低いと思われる人が、自分よりも経済的に成功しているという姿を見たり聞いたりしたときに、「じゃあ、自分も独立して、ひと花咲かせよう！」と思う人がいるかといえば。

上場企業にお勤めしている人たちに限った話をすれば、そのように思う人は多くはない気がするのです。それはなぜなのか。

実はここにも、上場企業にお勤めしている人たちに特有の思考がある。

▼では、それがどのような思考なのかといえば、それが「寄らば大樹の陰」のような、「自分以外のなにかの力に頼りたい」という思考です。

ご本人が自覚しているかいないかに関わらず、上場企業にお勤めしている人たちは、上場企業にお勤めしている時点で、この思考の持ち主である可能性が非常に高い。

そのように思うのです。

これは、僕が日常的に関わらせてもらっている上場企業勤務者の方たちの話を聞いていても感じることで、僕自身が最初の就職先として上場企業を選んだ背景にも、そのような思考があったと認識しています。

いずれにしても、上場企業にお勤めしている人たちに限った話をすれば、上場企業にお勤めしている

時点で、「自分以外のなにかの力に頼りたい」という思考の持ち主である可能性が高い。

そのように理解することができると思うのです。

そうであれば、その人たちが雑誌などで、自分よりも能力が低そうな人が、自分よりも経済的に成功を収めている姿を目にしたとしても、自分でなにかをしようとは思わないはずなのです。なぜならば、自分でなにかをしてしまえば、「大樹の陰」にいたることができなくなるからです。

その結果として、「お金を稼ぐための方法」や、「収入を増やすための方法」といった情報に目が留まるようになって、実際に、なにかをやってみようという感じにはならない人が圧倒的に多いという状況があるように見受けられるのです。

▼ところで、このような状況があるように見受けられる一方で、上場企業にお勤めしている時点で、それぞれの人がそれぞれに、「3つの切なさ」を抱えているという事実は変わりません。

そうなってくるとやはり、この切なさを解消したいと思う人は少なくない気がするのです。

では、そのときに上場企業にお勤めしている人たちはどのようにしてその状況を変えようとする傾向にあるのか。

僕が見ている限りにおいて、「社内での自分のポジションを確保すること」によって、状況を変

えようとするとする人が多いように感じます。

この「社内での自分のポジションを確保すること」が、人によっては「社内での自分のポジションを上げること」と同義になることもありますので、その部分だけが取りあげられて、この話が「出世欲」の話として捉えられることもある気がするのですが、これは実際には「社内での自分のポジションを確保すること」のバリエーションのひとつとして捉えたと理解がしやすいのではないかと思います。

▼では、社内での自分のポジションが確保されどどのようなことが起こるのか。

もしも社内で確固たるポジションが確保できれば、「さすがですね」と言われるようになるかもしれませんが。

その結果、「できる人なのにもかかわらず、できない人扱いされる」という状況もなくなるかもしれませんが。

それと同時に、「社外の人たちからは『すごい』と言われるのにもかかわらず、社内では埋もれてしまっている」という状況もなくなるかもしれません。

また、そのようなポジションが確保できれば、今よりもお給料が上がるということも起きるかもしれません。

そうすれば、「高いお給料をもらっているのにもかかわらず、お金に余裕があるとは感じられない」と

いう状況もマシになる可能性がある。

このような流れを自覚しているかいないかにかかわらず、自分がなんとなく感じていた居心地の悪さを解消するために、社内での自分のポジションを確保しようとしている人は非常に多いように感じます。

そして、この傾向は男性の社員さんたちにも女性の社員さんたちにも共通するものであると感じますし、どんな役職に就いている人にも共通するものであると感じます。

これもこれまでのお話と同じく、いいとか悪いとかいう話ではなくて、ただ単に上場企業にお勤めしている人たちのなかには、そういう傾向があるようですよ、というだけの話なのですが、こういう傾向があることを理解しておく、社内ですらいろいろな物事を進めるときにも役に立つかもしれないと思いますので、少しお話しさせていただきました。

ご参考にしていただける部分があれば幸いです。

(補足)

「自分以外のなにかの力に頼りたい」という思考を持っているのは、上場企業にお勤めしている人たちだけではありません。

たとえば、僕がお仕事で関わらせてもらっている人たちのなかでいえば、いわゆる「医師」と呼ばれる職業に就いている人たちもその思考を強く持っているように感じます。

つまり、その人たちの内部には、「医師免許という免許に頼りたい」という思考があるわけです。

あとはたとえば、「弁護士」と呼ばれる職業に就いている人たちや、「税理士」と呼ばれる職業に就いている人たちも同じ思考を持っているように感じます。

そもそもの話をすれば、そのような思考を持っている人たちが、たとえば上場企業と呼ばれる企業に就職しようとしたり、「医師」と呼ばれる職業に就こうとしたり、「弁護士」や「税理士」と呼ばれる職業に就こうとしたりする。

その結果として、そのような思考を持っている人たちが、上場企業に就職したり、そのような職業に就いたりしている。

このように考えてみるとまた違った景色が見えてくると感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが。

ご参考までにシェアさせていただきます。